

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人盛岡市文化振興事業団	
施 設 名	盛岡市民文化ホール	
助成対象活動名	人材養成事業	
内定額(総額)	3,196	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	3,196	(千円)
普及啓発事業	0	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	盛岡市民文化ホール開館 20周年記念 スペシャル・ガラ・コンサート	2018年11月11日	出演・演奏：市民芸術文化団体(合唱、弦楽、吹奏楽、舞踊)、仙台フィルハーモニー管弦楽団(指揮：岩村力)	目標値	入場者1000 参加者400
		盛岡市民文化ホール		実績値	入場者1034 参加者504
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	1,400
				実績値	1,538

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

- ・これまで音楽に適したホール特性を活かして、優れた芸術鑑賞事業提供による鑑賞者醸成と、市民の芸術文化活動の発表の場として活用されてきた実績がある。今後の芸術文化活動のさらなる活性化と醸成を目指して、音楽を中心に様々な舞台芸術分野で活動する幅広い世代の市民とともに、国内プロオーケストラとの共演による開館20周年を記念したスペシャル・ガラ・コンサートを実施することができた。
- ・オーケストラメンバーや指揮者による事前指導や舞台稽古、リハーサル等を通じて、実践を通じた技術の向上と創造活動のレベルアップを図ることで、芸術文化の担い手の育成につなげることができた。
- ・参加者、鑑賞者とも、子どもから大人まで幅広い世代の参加を得たことで、市民の芸術文化活動の裾野を広げ、次世代につなぐ契機とすることができた。
- ・鑑賞者の感想でも満足度が高く、市民の芸術文化へのさらなる関心の喚起と、参加者、鑑賞者を含めた芸術文化活動の気運、土壌の醸成につながり、盛岡市総合計画や盛岡市芸術文化推進指針で示されている芸術文化の振興に寄与することができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

- ・子どもから大人まで幅広い世代が参加、鑑賞できる事業として入場料は抑えながら、多くの市民の参加・鑑賞を支援する必要がある、気軽に親しめる機会の提供と次世代の担い手、鑑賞者の育成を継続的に支えていく必要がある。
- ・プロのオーケストラ等専門家による指導と共演の機会の提供により、市民の芸術文化団体の活動の活性化とスキルアップを図ることができるとともに、コンサートとしてのクオリティの確保と創造活動の支援につなげることができる。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

- ・ 合唱、弦楽、吹奏楽、舞踊（バレエ、モダンダンス、ジャズダンス）と、音楽を中心に様々な舞台芸術分野の団体から、子どもから年配層まで幅広い世代の参加が得られ、参加者数においても、目標を達成することができた。
- ・ 共演するプロオーケストラのメンバーや指揮者からの事前指導、舞台稽古やリハーサル、本番を通じて、実践を通じた技術の向上と創造活動のレベルアップなど、芸術文化の担い手の育成を図ることができた。
- ・ ジャンルを越えて共にステージを創り上げたことで、各ジャンルや団体相互の触発と新たな交流が生まれ、今後の活動へのさらなる意欲増進と活性化、振興に寄与することができた。
- ・ 鑑賞者についても、子どもから大人まで幅広い年代層が来場し、盛岡で活動する様々な芸術文化団体のクオリティを再認識するとともに、生のオーケストラとのコラボレーションによる表現への評価も高く、鑑賞者数、満足度とも、目標を達成することができた。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

・2年前から、財団理事で音楽を専門とする有識者にコーディネーターを依頼し、ともに企画立案を進めた。前年度には共演するオーケストラの選定、プログラム素案の作成、音楽を中心とした各舞台芸術分野の代表者等への打診を進め、全体の企画素案をもとに助成申請を行なった。事前の企画・準備期間を確保し、具体的な企画素案をもって実際の取り組み期間、予算等の策定を行なったことから、概ね当初の計画通りに進めることができた。

・プログラムを含めた企画素案の段階から、オーケストラ側とも協議を重ねながら進めたことで、事前指導や指導者同士のコミュニケーションを図ることができた。

・実際の参加団体公募から練習期間や回数などの取組み期間、舞台稽古等から公演本番までの流れなど、随時、オーケストラや関係スタッフと調整しながら進め、概ね予定どおりに進めることができた。オーケストラとの合わせ練習については、分野によってはもう少し回数や時間を増やせればよかった、と感じられる面もあったが、地元指導者の細やかな指導による練習の積み重ねにより、相応のクオリティを確保することができた。

・本企画への参加団体側の満足度、鑑賞者の満足度も高く、実施内容としては相対的に十分効果的なアウトプットとなったと思われる。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

- ・日頃、盛岡市民文化ホールを含めた市内の各文化会館、公民館等で、それぞれ継続的な活動を行なっている芸術文化団体が一堂に集い、ジャンルを越えて共に一つのステージを創り上げ、盛岡の中心的文化施設の節目となる年を共に祝うことで、ジャンルや団体相互に触発され、芸術文化団体同士の新たな交流が生まれるきっかけとなるとともに、市民の芸術文化活動の一層の奨励、振興を図ることができた。
 - ・プロのオーケストラや指揮者など専門家からの指導、共演によるステージの創造活動を通じて、芸術文化団体の実践を通じた技術の向上や創造活動のレベルアップ、指導者同士の連携・交流を図ることができた。
 - ・具体的なプログラムにおいては、盛岡で活動する合唱指導者による「フィンランディア」の盛岡版歌詞制作や、同じく盛岡の作曲家による「盛岡市民歌」の合唱版編曲など、ふるさと盛岡の讃歌として歌い継げる作品を制作することができ、郷土への愛着を高める機会とすることができた。
- また、洋舞団体によるバレエ「くるみ割り人形」のダイジェスト版やヴィヴァルディ「四季」のダンス創作など、盛岡ならではの特別なオリジナルプログラムで公演し、参加者、鑑賞者とも、本事業への参加を通して盛岡の多彩な芸術文化を創造・体感するとともに、盛岡の芸術文化の顕彰と更なる振興の契機とすることができた。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

- ・ 様々な舞台芸術分野の団体が、ジャンルを越えて共に一つのステージを創り上げ、盛岡の中心的文化施設の節目となる年を共に祝うことで、ジャンルや団体相互に触発され、芸術文化団体同士の新たな交流が生まれるきっかけとなるとともに、市民の芸術文化活動の一層の奨励、振興を図ることができた。
- ・ プロのオーケストラや指揮者など専門家からの指導、共演によるステージの創造活動を通じて、芸術文化団体の実践を通じた技術の向上や創造活動のレベルアップ、指導者同士の連携・交流を図ることができた。
- ・ 市内の合唱団体による合同練習に際しては、各パートリーダーを参加団体のメンバーが務め、今後、地元で活躍する指導者として良い経験の場となった。
- ・ 合唱で参加した小・中学生たちは、プロのオーケストラの演奏で歌う貴重な機会を得ることが出来たとともに、同じ合唱というジャンルで活動する地元合唱団と世代間交流を図ることができた。
- ・ 鑑賞者の満足度、特に盛岡の実演団体の水準や創造性への評価が高く、反響が非常に大きかった。
- ・ 本事業の情報発信として、ホームページや情報誌での周知、新聞・テレビ・雑誌やフリーペーパーなどのマスメディアの活用のほか、盛岡市の広報紙面で開館20周年を記念した特集ページで記念事業として情報発信した。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

- ・本事業を通じて、市民参加型事業や自主制作公演事業の経験の少ない職員も、参加実演団体への対応や制作過程における様々な実務を実践を通して経験することができ、職員のスキルアップと育成につながった。
- ・オーケストラと様々なジャンルとの共演によるプログラム、参加者とオーケストラ、スタッフ合わせて500名を超える規模の公演制作は当ホールでは初めての試みであったが、計画・立案にある程度時間をかけ、手探りながら調整を進めていき、コーディネーターや各舞台芸術分野の代表者、オーケストラの制作担当者等の協力を得られたことで、本事業の成功につながられたことは大きな経験となった。本事業の収穫として得られた人脈やネットワークを今後の事業運営や組織活動に活かしていく。
- ・本事業を通じて、当ホールのハード面等を含めた舞台製作上での留意点と可能性、オーケストラとスタッフや参加団体との調整、参加者の管理と情報伝達、練習計画と各スケジュール調整、スタッフの配置、チケット販売と広報宣伝ほか制作面での様々な手配など、スムーズに進められた面もある一方で、改善が必要な部分の気づきもあり、今後の事業運営の中でさらに検証と改善を行ない、職員間で共有しながら活かしていく。